

クラス	Q302	担当教員	大饗広之
テーマ	現代青年の心理 & 心理療法的アプローチ		
著書・論文 研究課題等	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 「豹変する心」の現象学—精神科臨床の現場から—（勁草書房、2009） ◆ 「なぜ自殺は減らないのか—精神病理学からのアプローチ」（勁草書房、2013） ◆ 「解離の病理—自己・世界・時代（共著）」（岩崎学術出版、2012） 		
ゼミナール概要			
キーワード：青年期、対人関係、解離、トラウマ、心理療法			
<p>思春期・青年期の心はどうなっているのか、いったい心理療法は具体的にどうやってアプローチするのかといったことがこのゼミでのテーマになります。ただいくら難しいことを考えても他者との関係に入らなければ心は変化しないし、他人のころについて知ることもできません。このゼミのメンバーには；</p> <ol style="list-style-type: none"> ①自分の内面に興味があり、自分自身の変化をめざすこと ②自分の興味あるテーマをゼミ内で開示し、ディスカッションを通じ深めていくこと ③ゼミ内での人間関係、そこで耳にした個人的情報については一切秘密を守ること <p style="text-align: right;">などが求められます。</p> <p>大まかな運営方針は次の通りです；</p> <ol style="list-style-type: none"> ①自分の選択したテーマにそって、先行研究（文献、書籍など）を読み込んで発表する ②面接方法を学ぶために、実際に身近な誰かに模擬カウンセリングを行って逐語録を持ち寄り、ディスカッション（公開スーパーヴィジョン）をおこなう ③自らもカウンセリングの被験者などを経験する などなど <p>大事なことは自分自身が積極的にテーマを煮詰めていくこと、そしてディスカッションの場を活用することです。ゼミという閉鎖的（中間的）な集団状況はその気になれば自分を知るための場としてはもってこいです。心理療法は「三つ子の魂百まで」という固定観念をやぶっていく営みですが、そのためにも多少の心理的抵抗も覚悟しなければならないということです。</p>			
担当教員からのメッセージ			
<p>心理学科には入ったけれど自分のころについてはサッパリわからなかった、自分の心とはぜんぜん関係ないことばかり学んだなどと不満をいう学生が多いようですが、それでは時間と金をドブに捨てているようなもの、自分のころを知るには「鏡としての他者」が必要であり、そのためにゼミを活用すればいいということです。上にも書いたとおり、このゼミは討論中心で、学生の自主性に委ねられるところが大きいので、少なくとも疑問を抱き、積極的に議論に参加していく姿勢が最低の条件です。叩けよさらば開かれん、そうやって自分の抱いた疑問に執念深くコミットしていけばけっこうおもしろくなるものです。</p> <p>念のため、研究というのは自分のみつけたテーマを長年にわたって温めて追求していく作業であり、1年や2年で何かが形になるものでもありません。たとえば院に進む人であれば、卒論の段階からそのテーマを長く追及するつもりで取り組むのがいいでしょう。</p>			